

CNA Report Japan

Newsletter focused on
Collaborative Conferencing

Conferencing News & Analysis— Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター Vol. 7. No. 12 2005 年 6 月 30 日号 毎月 15 日・月末発行

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集:橋本啓介 k@cna.jp Copyright 2005 Kay Office All rights reserved.

ニュース項目

■ NTT-AT、3G-324M 対応の総合試験ツール「RADVISION ProLab 3G-324M」を発売

NTTアドバンステクノロジー(東京都新宿区)は、イスラエルの RADVISION 社が開発した、3G-324M 対応のネットワークや音声トラフィックをテスト・シミュレーションする総合試験ツール「ProLab 3G-324M」を「NTT-AT Global WAVE」シリーズの一環として、国内の通信キャリアおよび端末メーカ、SI事業者等を対象に7月19日より販売開始する。

ProLab 3G-324M は、呼制御用プロトコル(H.245)解析・表示、メディア解析、過負荷試験等を行えるため、(1)3G-324M 携帯電話の開発や検証、(2)3G-324M 携帯電話向けストリーミングサーバやアプリケーションサーバ、ゲートウェイの開発、(3)3G-324M 対応カメラなどの機器の開発などに利用できる。

ProLab 3G-324M の特長は、(1)仕様/機能確認、性能評価、異常系/長時間/過負荷試験等の実施が可能、(2)送受信したシングリング(H.245)を解析、表示、(3)フレーム分布/ロス、スタッフィング、帯域等の送受信メディアデータ表示、(4)CRC/同期エラー、フレームロス等の各種異常系のエミュレーション、(5)3G-324M、SIP、H.323の異なるプロトコル混在試験が可能、(6)3G-324M 高速接続の新方式 WNSRP (Window Numbered Simple Retransmission on Protocol) 対応、(7)WCDMA、ISDN、TCP/IP、RS に対応し、被試験端末の実装フェーズにあわせた試験が可能、(8)試験結果を統計表示、(9)Media Viewer にて送受信したメディア表示、(10)メディアの録画、再生、(11)各種サンプルスクリプトと複数ベンダーのメディアファイルを添付など。

ProLab 3G-324M を使った試験例としては、(1)WCDMA、ISDN、TCP/IP、RS232 のトランスポートレイヤによる 3G 携帯電話、3G-324M 搭載の 3G 端末の試験、(2)ISDN 使用のトランスポートレイヤによる3G-IP ゲートウェイ、3G アプリケーションサーバ、3Gストリーミングサーバなどの過負荷試験、などが行える。さらに、従来の ProLab Test

Management Suite のソフトウェアと組み合わせることにより、3G-324M、SIP、H.323 の試験が可能だ。

モジュールの構成により価格は異なるが、税込み525万円から。ソフトウェアのみの提供、あるいはソフトウェアとハードウェア一体型でのご提供が可能。対応 OS は、マイクロソフト Windows NT/2000/XP。試験仕様にあわせて、PC の推奨スペックは変わる。

ProLab 3G-324M 実装規格

- 3GPP 3G-324M recommendation
- 3GPP TS 26.110
- 3GPP TS26.1113
- 3GPP TS 27.0073
- 3GPP TS 26.9113
- ITU-T H.324 Annex A
- ITU-T H.324 Annex C Mobile Requirements
- ITU-T H.245 Version 11 – Advanced Call Control
- ITU-T H.223
- ITU-T H.223 Annex A Error handling level 1
- ITU-T H.223 Annex B Error handling level 2

■ ブイキューブブロードコミュニケーションとエンプレックス、WebTV 会議連携 CRM ソリューションで提携

ブイキューブブロードコミュニケーション(東京都目黒区)とエンプレックス(東京都中央区)は、ブイキューブブロードコミュニケーションが開発し提供する WebTV 会議システム「nice to meet you」と、エンプレックスが開発・販売する統合型 CRM パッケージソフトウェア「eMplex CRM」との連携させた WebTV 会議連携 CRM ソリューション「eMplex CRM + nice to meet you」において業務提携した。

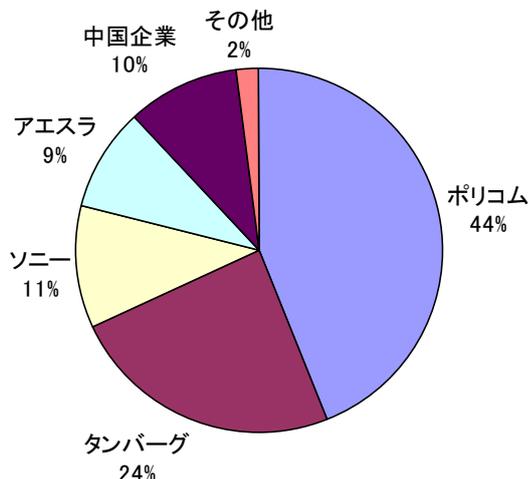
「eMplex CRM + nice to meet you」は、インターネット接続環境と市販の映像入力装置を用意するだけで動作する。使用方法としては、パソコン、携帯電話、プロジェクトのディスプレイ上で eMplex CRM 上に蓄積された顧客のコンタクト情報や

ホワイトボードを参照しながら、お互いに顔を見ながら商談などのミーティングを行える。

また、グループウェア機能を提供する「eMplex Enterprise Information Portal(EIP)」と組み合わせ、そのポータル機能にミーティングのスケジュールを登録しておけば、開始時刻に参加者を呼び出してそのままミーティングを始めることができる。また、そのミーティングの模様をCRMのコンタクト履歴として蓄積することが出来る。

■米 Wainhouse Research 社 2005 年 1-3 月期テレビ会議市場データ発表 (Vol.6 No.19 号から抄/意訳)

第一四半期グループシステム(ルームタイプ、セットトップタイプ等)市場シェア



米調査会社の Wainhouse Research 社は、2005 年第一四半期(1 月-3 月期)のテレビ会議市場データを発表した(上記グラフ)。

同社によると、季節的な変動周期としては、第四四半期の駆け込み的需要から一転して、第一四半期は、低調な四半期と見る。出荷台数ベースで市場全体的には、前第四四半期から第一四半期では10%減だが、マーケットプレーヤーの中でも大手の下げ幅は、その10%よりも少なく4%減にとどまっている。

対前年同期比で見た場合は、出荷台数は好調な結果を示す。

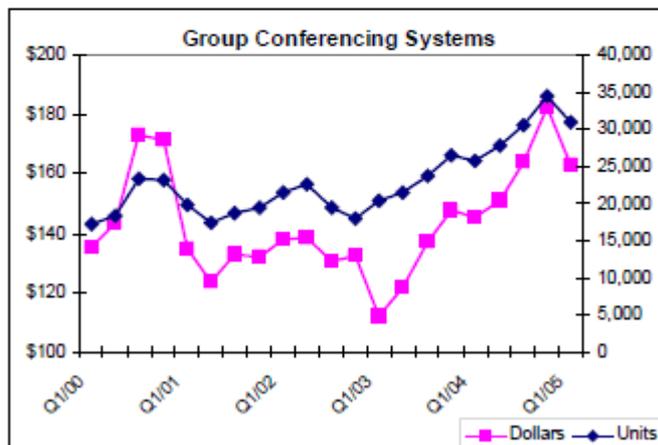
第四四半期から比べると、ポリコムが2ポイント、ソニーが1ポイント、アエスラが3ポイント市場シェアを拡大している

が、中国企業メーカー(Team China,複数社合算)は、5ポイント下げている。それは、中国の旧正月にあたるため、その影響がでているのが原因。

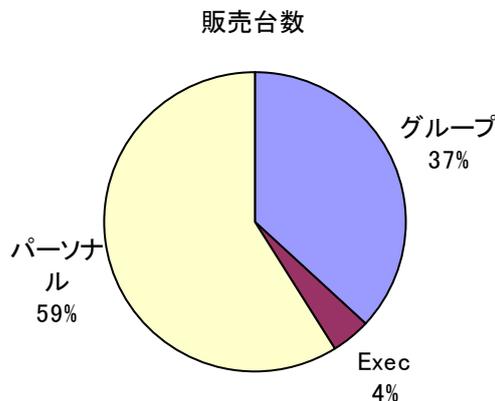
◆上段グラフ:上位6社 VS 中国企業 VS その他企業の出荷台数と対前四半期比、対前年比による集計数値

下段グラフ:グループ会議システム(ルームタイプ、セットトップなど)平均販売単価(ASP)対出荷台数を示したグラフ

Group+Exec Units	Q1/04	Q4/04	Q1/05	対前四半期	対前年
Big Six	23,757	29,051	27,900	-4.0%	17.4%
Team China	1,701	5,034	2,930	-41.8%	72.3%
Other	350	380	15	-96.1%	-95.7%
Total	25,808	34,465	30,845	-10.5%	19.5%

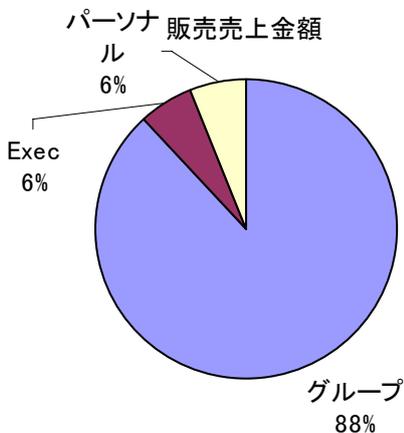


◆グループシステム、エグゼクティブシステム(オールインワンタイプ)、パーソナルシステム、それぞれの出荷台数ベースによる数値



(次ページへ続く)

◆グループシステム、エグゼキュティブシステム(オールインワンタイプ)、パーソナルシステム、それぞれの販売売上金額ベースによる数値



◆グループ、Exec タイプテレビ会議システム各国別数値

各国	フランス	ドイツ	イギリス
出荷台数	926	558	1,899
販売売上金額	\$6.2M	\$4.1M	\$13.2M
各国	日本	中国	イタリア
出荷台数	3,066	3,710	1,418
販売売上金額	\$12.3M	\$13.2M	\$6.4M

◆グループシステム、地域毎の売上割合

	NA	EMEA	A/PAC	ROW
売上	39%	33%	27%	1%



Wainhouse Research, LLC
<http://www.wainhouse.com>

情報参照: Volume 6 Issue #19 24-May-05

■米 DVE 社、テレビ会議のリアリティを実現する、“テレプレゼンス”システム

米 DVE (Digital Video enterprises, Inc (DVE telepresence))社は、テレプレゼンスシステムを開発し販売開始した。

テレプレゼンスシステムは、テレビ会議システムのコーデックを搭載してはいないが、テレビ会議中のアイコンタクト

や、遠隔地の間でのテレビ会議であっても、同じ部屋の空間にいるかのようなリアリティを実現する。

従来のテレビ会議システムには、アイコンタクトの問題や実際の空間を共有する感覚といった点で、限界があったと同社では考える。



Telepresence Podium



Telepresence 32 32 インチワイドスクリーン搭載



Eye Contact Silhouette デスクトップタイプ

この DVE テレプレゼンスシステムは、基本的に既存のテレビ会議システムメーカーのコーデックと組み合わせて使用。最近の HD(テレビ会議のハイデフィニション(高解像度)化に

よりよりきれいな映像がテレビ会議で可能になるが、HD とこのテレプレゼンスシステムが組み合わせられればよりリアルな映像コミュニケーションが行える。

今回発表したテレプレゼンスシステム製品は、以下のとおり、

- Eye Contact Silhouette
- Telepresence 32
- Telepresence 37
- Telepresence 45
- Telepresence 50
- Immersive Meeting Room
- Telepresence Podium
- Virtual Observer
- Transparent Telepresence Display
- Intelligent Switched Telepresence
- Telepresence Control System



Telepresence 50 50 インチワイドスクリーン搭載

CNA レポートジャパンの取材に対して、同社の創業者 Jeffrey S. Machtig 氏は、次のように述べる。「会議システムビジネスは、2005 年を境に新たな事業機会が到来するパラダイムシフトが現在起こりつつあると認識している。当社はその認識に基づく事業ビジョンの下ビジネス展開している。

従来のテレビ会議システムは、映像の品質やアイコンタクトなどのヒューマンな部分に対するニーズについて十分対応しきれなかったのではないかと思います。

だが、最近のリアルな映像コミュニケーションを実現するテレビ会議の HD 化(高解像度映像)の動き、そしてその背景としての実用段階に入ってきた IP テレビ会議、ブロードバンドの低廉化などにより、そのパラダイムシフトがますます現実味を帯びてきている。

会議システム業界はこれから一世代前の“テレビ会議”から本格的なテレプレゼンスへ移行していくと考える。そのテレプレゼンスに対して当社は、パイオニア的な技術を持ってよりリアルでインタラクティブな映像コミュニケーションを開拓し、それを特許とし、競争力のある独自の技術として完成させたいと考える。」

ショートニュース項目

◆Web 会議システムを開発する米 Arel Communications 社は、「Arel Spotlight II」を発表。Arel Spotlight は、「Arel Spotlight Meeting」、「Arel Spotlight Webinar」、「Arel Spotlight Campus」からなり、今回は、QoS 機能の強化、ダイナミックビデオ帯域管理機能、SIP、H.323、一般電話、衛星などの回線に対応。Web カメラ、PC、インターネット接続があればミーティングが行える。(CNA レポートジャパン Vol.6 No.8 2004 年 4 月 30 日号)

◆インドの Noida Software Technology Park 社と米 Arel Communications 社が協同で遠隔授業向けのウェブ会議ソリューションを提供することで提携。衛星を使った Arel Spotlight II を使った遠隔授業をインドニューデリーにあるコズミックキャンパス遠隔授業センター(DLCs)がインド各地に対して提供する。

◆仏ジェネシスカンファレンシングは、サンフランシスコ、アトランタ、ダラス、フィラデルフィアなど米国主要都市に営業拠点を設置、営業部隊を 2004 年第四四半期より 20%増加させてきた。今後さらに 50%営業部隊を増加させ今後の販売展開を強化。また、中国では、Beijing Shrine 社、韓国では、Teletgether 社とそれぞれ提携し国内でのジェネシスカンファレンスのサービス販売の強化を図ると発表。フロスト&サリバンは、中国での音声会議サービスは 2010 年までに 2140 万 USD へ市場が成長すると予測する。

◆イスラエルのラドビジョン社は、3G-324M 向けのインターオペラビリティテストサービスを提供開始する。3G-324M をインプリメントする上での CCSRL や WNSRP などの通信手順を試験することが可能。

◆米ソニーエレクトロニクス社は、音声会議システムの米 ClearOne Communications 社と提携した。ソニーのビデオ会議システムと、RAV900 音声会議システムと AccuMicVC エコーキャンセラー付マイクروفオンなど ClearOne 社の音声会議システムを組み合わせたソリューションを提供する。

◆イタリアのテレビ会議メーカーアエスラ社が、中国上海に第三目の営業拠点を開設する。同社は、北京、深センにも拠点を持ちアジアビジネスの強化を図る。

◆イギリスのハル市でのデジタルハウスプロジェクトで、近未来のハイテクハウスにアエスラのテレビ会議システムが採用された。遠隔医療用機器なども設置される。



会場内



展示会レポート

IP テレフォニー&携帯ソリューション 2005・TV会議フォーラム 2005

主催:日経 BP 社

会期:2005年5月19日-20日

場所:サンシャインシティ 文化会館

WWW: <http://expo.nikkeibp.co.jp/iptel/>

日経 BP 社主催の IP テレフォニー&携帯ソリューション 2005・TV会議フォーラム 2005 が開催され、TV 会議フォーラムについては、多数の会議システムメーカー等が出展し、終日多数の来場者で大変盛況だったようだ。また、セミナーセッションも満席が多く真剣に聞き入る聴講者が多数いた。

今回は、最終日の最後の数時間の短い時間の参加だったが、業界が盛り上がってきていると強く印象に残った。出展した会議システム関係の企業では、結構手応えがある内容だったようだ。

今回のレポートでは、文字よりも写真が多いレポートだが、当日の熱気が多少でも伝わればと思う。

今後日本でこのような会議システムにフォーカスした展示会やセミナーが多数開催されるようになれば、業界にとっても認知を高めるよい機会でもあるし、また、エンドユーザーの立場からしても会議システムの最新の動向などがつかめるよい機会であると思う。



NTT ビズリンク ヴィジュアルコミュニケーション事業部 事業部長 金箱光人氏講演



NTT ビズリンク



NEC エンジニアリング (IP テレフォニー出展)



ダイトエレクトロンとポリコム



ソニーマーケティング



TANDBERG

TV 会議フォーラム出展企業

エイネット、蝶理情報システム、CODIAN、クレオ
ダイトエレクトロン、ジャパンメディアシステム
マクロメディア、マルコーニ コミュニケーションズ
メディアプラス、NEC、NEC 通信システム
日本アビオニクス、NTT ビズリンク
NTT コミュニケーションズ、NTT アイティ
NTTPC コミュニケーションズ
オサムインビジョンテクノロジー、プリンストンテクノロジー
ソニーマーケティング、TANDBERG、トップネット
ブイキューブブロードコミュニケーション
ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン

イベント情報

▶ テレビ会議端末比較セミナー

～運命の端末に出会うために～

主催：株式会社ブイテック

日時：2005年7月1日(金) 15:00～17:00(開場 14:30～)

会場：東京都三鷹市下連雀 3-38-4 三鷹産業プラザ 7F
705 会議室

詳細：<http://www.v-tech.co.jp/seminar.html>

※当日は、SONY、TANDBERG、HUAWEI、POLYCOM 各社の主要テレビ会議端末の他に、セミナー当日7月1日発売のSONYの新スタンダードモデル「PCS-G50」の実機を体験ができる。

▶ いつでも、どこでも、誰とでも会議ができる！

USB メモリタイプ 遠隔コラボレーションツールのご紹介

日時：7月6日(水)

第1回：9:30 開場、10:00-12:10

第2回：14:30 開場、15:00-17:10

主催：日本アビオニクス株式会社

場所：日本アビオニクス 本社(東京 新橋) セミナールーム

詳細：

http://www.avio.co.jp/products/collabomate/seminor/semi_nor0507.htm

▶ ビデオ会議システムの導入を成功させる秘訣をお教えします！

日時：7月8日(金) 13:30-17:00

場所：トーマンサイバービジネス株式会社 会議室

主催：株式会社アールネットコミュニケーション

協賛：トーマンサイバービジネス株式会社

詳細：<http://www.r-netcom.co.jp/seminar-1.htm>

▶ BCS Tokyo 2005(企業の新しいコミュニケーションのあり方を提案する)

日時：7月14日(木)-15日(金) 10:00-17:30

場所：青山テピア 3階展示ホール 4階 TEPIA ホール

主催: ビジネスコミュニケーションサミット委員会
協賛: TeleSpan Publishing Corporation
詳細: <http://www.bcs-tokyo.jp>

BCS Tokyo 2005 情報



日時: 2005年7月14日(木)-15日(金)
午前10時~午後5時半
場所: 青山テピア 3階展示ホール 4階テピアホール

◆事前登録特典:
会議システム(入門)ハンドブック無料配布(限定数)

◆事務局企画: 無料相談コーナー
相談員
株式会社エムストーン 代表取締役
藤原 祥隆 氏
日本大学商学部・大学院商学研究科
教授 児玉 充 氏

詳細・事前登録 <http://www.bcs-tokyo.jp>

【ゴールドスポンサー】

ウェブエックス・コミュニケーションズ・ジャパン(株)
NTTアイティ(株)
NTTコムウェア(株)
NTTビズリンク(株)
Compunetix, Inc.
トーマンサイバービジネス(株) / (株)アイピイネット
ネットワークシステムズ(株)
マクニカネットワークス(株)
マクロメディア(株)
ポリコムジャパン(株)

【シルバースポンサー】

NEC エンジニアリング(株)
NTT アドバンステクノロジー(株)
NTT コミュニケーションズ(株)
NTT 東日本(株)
ソニーマーケティング(株)

TANDBERG
(株)テリロジー
パイオニア(株)
(株)日立ハイテクノロジーズ
日本システムウェア(株) / VCON Ltd.
VTV ジャパン(株) / アエストラ
プレミアムコンファレンシング株式会社
丸紅テレコム(株)
RADVISION Ltd.
(株)ヴォルフビジョン

【協賛団体】

インターナップ・ジャパン株式会社
株式会社インターネットイニシアティブ

【後援団体】

International Multimedia Telecommunications Consortium
(IMTC)
NPO 法人オープンソースでネットコミュニティを開拓する会
(株)シードプランニング
(株)東洋経済新報社
HATS 推進会議
ビジュアルコミュニケーション推進協議会
(株)富士カメラ総研
米国大使館商務部

ジェネラルトラック&テクニカルトラック(14日午後)

<http://www.bcs-tokyo.jp/seminar/index.html>

*ジェネラルトラックは、エンドユーザー企業7社(予定)の事例発表とパネルディスカッション。

*テクニカルトラックは、SIP、H.323、NAT/FW、エコーキャンセラーなど会議システムに関する技術がわかるセッション。

その他詳細は、<http://www.bcs-tokyo.jp> をお願い致します。

編集後記

いよいよ後2週間後に BCS Tokyo 2005 が迫ってきました。来場者がどのくらいになるのかが一番の心配事ですが、とにかく最後まで事務局一同頑張りたいと思います。

是非ご来場ください。よろしくお願い致します。

ところで、11月7日には日経 BP 社と Skype 社が共同で「Skype Day」を都内で開催するようですね。Skype によるとこれから11月にかけて携帯電話が沢山でてくるとのこと。どのようなニュースが出てくるか楽しみです。別途レポートできればと思います。

CNA レポート・ジャパン

編集長 橋本 啓介 k@cna.jp (CNA レポート・ジャパン
Vol 7. No.12 2005年6月30日号終わり) 次号 Vol 7. No.
13 は、2005年7月19日の発行を予定しております。